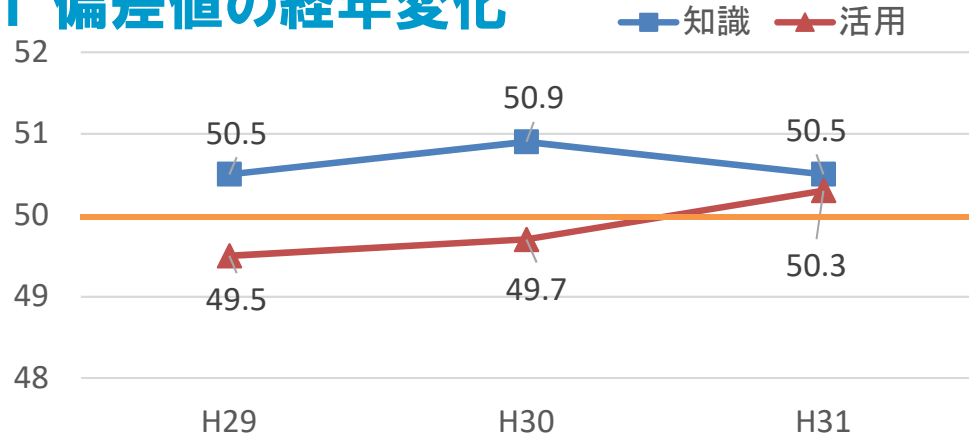


結果のポイント

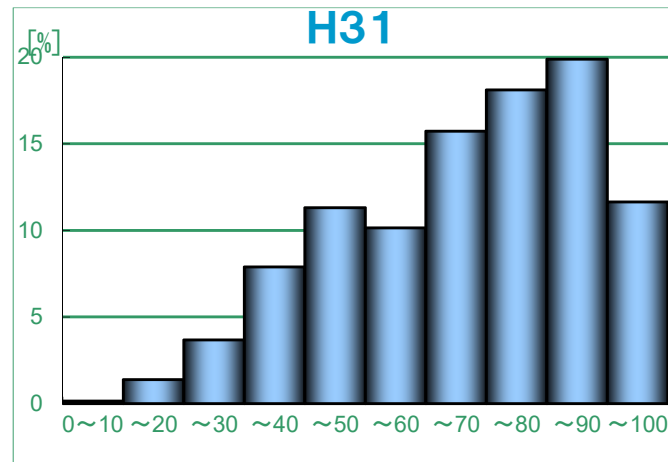
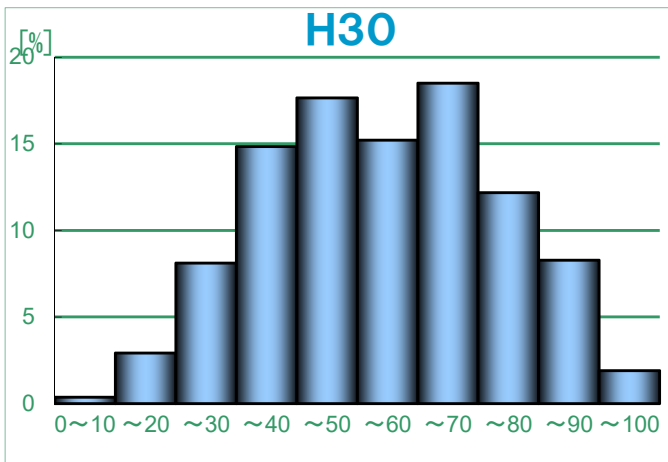
1 偏差値の経年変化



○活用がH30から0.6P伸び、初めて偏差値50を上回った。

▲知識も偏差値50を超えたものの、H30に比べて0.4P下がった。

4 正答率度数分布の変化



2 領域別の結果

領域	正答率	目標値	偏差値
世界の地域構成	55.5	56.7	50.1
世界各地の人々の生活と環境	71.9	66.3	50.5
世界の諸地域	65.2	63.6	50.0
古代までの日本	73.6	66.7	50.5
中世の日本	59.1	55.0	50.8

○全ての領域で偏差値50を上回っており、地理的分野、歴史的分野ともに全国並の定着が図られている。

▲世界の地域構成は偏差値50を上回ったものの、目標値を1.2P下回った。

3 観点別の結果

観点	正答率	目標値	偏差値
社会的な思考・判断・表現	60.5	56.1	50.3
資料活用 of 技能	65.6	62.9	50.2
社会的事象についての知識・理解	70.8	65.8	50.8

○全ての観点において偏差値50を上回っており、バランスよく力がついている。

○正答率30%以下の生徒が減少している。

○H30は正答率61~70%の層が最も多かったが、H31は正答率81~90%の層が最も多くなっている。

■ 課題が見られた問題と指導の改善

1 正答率が低かった問題

大問1(1)(正答率50.0%・目標値55.0%)
地図中の緯度と経度を読み取る問題

大問1(3)(正答率36.1%・目標値45.0%)
緯線と経線が直角に交わる地図について、その特色を把握する問題

- ▲緯度と経度の理解。
- ▲北緯と南緯、東経と西経の理解。
- ▲メルカトル図法と正距方位図法の特色や用途の理解。

地図に関する基礎的・基本的な理解ができていない。

指導の改善

○メルカトル図法や正距方位図法等、それぞれの地図がもつ特色を理解させるとともに、その地図の表し方のよさについて、実感を伴うような活動を仕組む。

○平素から地図帳を十分活用するとともに、生徒の地理的技能の習熟の様子を踏まえながら、地図から様々な情報を読み取る活動を繰り返し指導する。

2 無解答率が高かった問題

大問7(3)(正答率50.5%・無解答率26.8%)
奈良時代の様子の背景について、複数の資料から共通点を見だし、その特色を説明する問題

- ▲2つの資料から共通点を見いだす。
- ▲資料中の語句を2つ用いて説明する。

情報の取り出しとそれらの結び付けができていない。

指導の改善

○下記のどの段階でつまづいているのか実態把握し、支援・指導していく。

- ① 複数の資料から条件に合致した情報を取り出す段階
- ② 取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする段階
- ③ 比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って記述する段階

○複数の資料から情報を取り出し、関連付けて、社会の中にある問題を見付けたり、その解決に向けて考えたりする場面を設定する。

○グループ等による学習を通して、自分とは異なる視点から取り出した情報を得たり、そこから広がった考えを記述したりする場面を設定する。